

平成24年度釜石市立釜石中学校 釜石市授業交流会 社会科指導案

<p>【自己課題】・生徒が理解しやすいように解説事項にプロジェクターを有効に利用していく。 ・基礎基本の定着を図るための、プリント、視聴覚機器による提示の工夫を考える。</p>			
1.実施日	11月9日（金）	2. 授業者・学級	鈴木文人 1年2組 男16名、女16名 計32名
3. 教科名	社会	4. 単元名	第3章 中世の日本 1 世界の動きと武家政治の始まり
5. 単元の目標	<p>○鎌倉幕府の成立から承久の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭した武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、幕府による支配が確立していった様子を理解させる。</p>		
6. 単元の評価規準	<p>歴史上の人物や喧噪物を通して、時代の特色や歴史の移り変わりに対する関心を高め、意欲的に追求しようとする。（関心・意欲・態度）</p> <p>歴史上の人物や建造物をもとに、時代の特色や歴史の移り変わりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。（思考・判断・表現）</p> <p>歴史上の人物や建造物に関する資料を収集し、適切に選択して読み取り、カードなどにまとめる。（技能）</p> <p>代表的な時代区分の方法や、西暦・年号の紀年法、正規の区切りについて理解し、その知識を身につける（知識・理解）</p>		
7. 単元（章）の指導計画	<p>(1) 大陸をまたぐ大帝国 1時間 (2) 貴族から武士へ 1時間 (3) いざ鎌倉 1時間 (4) 御家人は団結せよ 1時間（本時） (5) 祇園精舎の鐘の聲 1時間</p>		
8. 本時の指導目標	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>☆ 承久の乱後、北条氏が全国へ勢力を伸張させ、六波羅探題の設置や評定衆による合議制の採用、御成敗式目の制定を通し、武家政治を拡大させていったことを理解させる。</p>		
9. 本時と【自己課題】との関わり	<p>① 生徒の理解・思考・判断の手助けになりように資料の提示方法を工夫することで、理解の助けとする。 ② 動きのある画面を示すことで、生徒達の興味や関心を高めながら時代の流れをおさえる。</p>		

段階	学 習 内 容	学 習 活 動	○ 指導上の留意点 ☆ 評価の観点
導入 5分	1、承久の乱前後の支配関係 2、学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">武士の支配が全国に拡大していったのはなぜだろうか。</div>	・「承久の乱前後の支配関係地図」から乱の前後を比較する。	(資料1・提示：プロジェクター) 「承久の乱前後の支配関係地図」 ○同じ時代の中国は、宋であることにもふれる。(空間的視点を取り入れる) ・
展開 35分	3、予想する 4、北条氏の鎌倉幕府のなかでの実権強化の過程(課題追究①) (1) 頼朝の死後の動向 (2) 執権政治の始まり (3) 他氏の排斥 (4) 北条氏が政治の実権を握った理由 5、承久の乱(課題追究②) (1) 承久の乱前後の北条氏と上皇の関係 (2) 承久の乱 (3) 承久の乱後の様子 (4) 北条泰時の政治 (5) 北条氏による政治のしくみ	・ 課題についての予想をたてる。 ・ 頼朝の死後、幕府の政治の展開が変化したことを知る。 ・ 頼朝の死後の北条氏の動向を資料を基に調べる。 ・ 北条が様々な事件の過程を通して他の御家人を排斥していくことを確認する。 ・ 北条氏が政治の実権を握っていった過程について考え、プリントに記入する。 ・ 承久の乱前後の北条氏と上皇の関係を確認する。 ・ 承久の乱の様子を調べる。 ・ 北条氏の勢力の拡大の様子を調べる。 ・ 合議制の採用や御成敗式目の内容を確認する。 ・ 北条氏による政治が安定し、勢力を拡大していった様子から、御家人による合議制や御成敗式目について考え、北条氏の政治のしくみの特色をまとめ発表する。(個人→班)	○将軍の独裁政治から13人の御家人による合議制に変化したことにふれる。 (資料2・提示：プロジェクター) 「政治体制の変化」 (資料3・配布資料) 「北条氏関連年表」 (資料4・配布資料) 「北条氏の進出過程」 ○実朝の暗殺により朝廷から将軍が招来されたことを補足する ☆頼朝の死後幕府の政治が変化していったことに気づく。 【社会的な思考・判断・表現】 (資料5・配布資料) 「政子の訴え」 ○御恩と奉公の関係に気づかせる。 (資料1・提示：プロジェクター) 「承久の乱前後の支配関係地図」 ○資料1の承久の乱前後の支配関係図を用い、東国武士が守護や地頭として西国へ移動したことを気づかせる。 ○式目が後世まで引き継がれ、戦国家法に生かされたことにふれる。 ☆北条氏が政治の実権を握っていった課程と将軍の独裁政治から御家人による合議制や御成敗式目の採用が変わったことを考える。 【社会的な思考・判断・表現】
終結 5分	6、本時のまとめ 7、次時の確認	6、課題にまとめをする。(振り返り) B：北条氏の死後動向や承久の乱後から北条氏が政治の実権を握っていったことに気づく 7、当時の武士の生活と農民のくらしがどのようなものであったか予想する。	☆北条氏が政治の実権を握っていった過程を確認する。(確認プリント) ・プリントを回収し、理解できたか確認する。